

感情音声認識技術の20年後の発展 (実習の進捗発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 和田, 善尚, 石橋, 佑太, 高木, カレブ, 田中, 文菜 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027432

感情音声認識技術の 20 年後の発展

和田善尚(情報科学科), 石橋佑太 (情報科学科) , 高木カレブ (情報科学科) , 田中文菜 (情報社会学科)

近年, Amazon の Alexa や Apple 社の Siri といった AI スピーカーが活躍しており, 音声認識は私たちに身近な存在となっている. しかしそれらは発話を対象とした音声認識装置が多く, 環境音などの発話以外を対象とした音声認識装置はあまり見かけられない. 私たちは未開拓の音情報に興味を持ち, その中でも乳児の声に焦点を当てた感情認識技術を中心に音声認識技術の 20 年後を文献調査に基づき推測する. その結果, 乳児の発する声の認識は乳児の声しか存在しない環境であれば可能である (山本ら, 2009) が, 周りに環境音や成人の声などが混在している場合は誤検出率が高くなることが分かった. 最新の研究から, ビームフォーミングと MNMF を用いることによって, 教師なし学習でも音声認識の精度は向上することも分かった (島田ら, 2018) . したがって, 20 年後において感情音声認識は自動的に騒音を除去して, さらに感情を言語化することが可能であると推測する.

(学習マネジメント,担当教員:宮崎真)